2025年度 聖セシリア祭・松和会総会報告











10月18日・19日、創立100周年に向けて「Re:ProloGue」をテーマに聖セシリア祭が開催されました。保護者や卒業生など2日間で約4,000名もの方々が来場され、校内は笑顔と活気に包まれました。

松和会ルームでは、歴代制服・卒業アルバムの展示とセシリアオリジナルキットカット、セシリアサブレなどのお菓子やグッズの販売を行い、多くの方々にお立ち寄りいただきました。また、2025年は新たな試みとして喫茶スペースにてアイスティーを販売いたしました。

初日の聖セシリア祭終了後には総会を開催し、活動報告を行いました。卒業生に加え、校長先生をはじめ先生方にもご参加いただき、学年を超えての温かな交流の場となりました。

松和会役員一同、今後も多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

（松和会役員　森山　記）

今年度の聖セシリア祭は・・・ 10月24日(土)・25日(日)に開催予定です。

松和会総会　24日(土)15:00～聖セシリア祭終了後に開催いたしますので是非ご出席ください。

■ 同窓会を開催されましたら松和会までお知らせください

会報に掲載させていただきます。また学校で開催をお考えの方はテレサ館カフェテリアも使用できますのでご相談ください。

■ 住所録データの整理に関するお願い

発送後、宛先不明となり返送される会報が年々増加しております。住所表示変更や転居による住所変更のある方、またご友人などで会報が届いていない方をご存知でしたらお知らせいただけますようお願いいたします。松和会まで郵便、FAX、電子メール等ご都合のよい方法でご連絡ください。なお、聖セシリア女子中学校・高等学校ホームページより「卒業生のページ」→「変更届」のページからでも変更連絡が可能です。

https://www.cecilia.ac.jp/

住所録データ連絡事項

❶氏名　❷卒業年度　❸住所　❹TEL
❺FAX　❻メールアドレス
❶～❹につきましては必須でお願いいたします。

2025年度　松和会　会計報告（単位:円）

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	8,281,203円	運営費	
銀行・ゆうちょ預貯金利息	12,370円	慶弔費	10,000円
令和7年度卒業生会費	1,160,000円	事務費(交通費)	20,640円
小計	9,453,573円	事務費(文具費)	330円
		小計	30,970円
聖セシリア祭売上金	292,199円		
小計	292,199円	活動費	
		会議費	18,343円
		新入会員記念品	107,275円
		聖セシリア祭準備金	240,472円
		聖セシリア祭寄付金	51,727円
		会報諸経費	284,130円
		名簿更新・送料	554,029円
		小計	1,255,976円
収入合計	9,745,772円	支出合計	1,286,946円
		総計	8,458,826円

*差引残高　8,458,826円 は次年度に繰り越しいたしました。

上記の通り、報告いたします。　会計　堀田 孝子
監査の結果、上記報告書に間違いのないことを報告いたします。　会計監査　伊藤 千秋

編集後記

私が高校3年の時に学園は創立55周年を超え、この年に初めて聖セシリア祭を行いました。あれから42年、変わらない思いもあれば時代の先端をいく活動もあり、学園は確実に進化していることを実感しています。10月に行われる聖セシリア祭には是非多くの卒業生に足をお運びいただき、学園の進化を体感していただきたいです。　（松和会役員　青山　記）

お問い合わせ先　聖セシリア女子高等学校同窓会「松和会」宛　TEL 046-275-3727　FAX 046-275-4080

Confido
信じ・希望し・愛深く
Desidero Diligo

St.Cecilia OG会
松和会会報44号
発　行●学校法人 大和学園
聖セシリア女子高等学校
同窓会「松和会」
住　所●〒242-0006
神奈川県大和市南林間3-10-1
ＴＥＬ●046-275-3727
会員数●8,125名（2026年8月現在）
発行日●2026年9月10日



学園の今、昔



1929年の創立以来、変わることなく私たちの歩みを見守り続けてきた松林からは永きに渡る学園の歴史が感じられます。樹齢を重ねて寿命を迎え、松の樹々は減りましたが、これからも緑豊かな学園であり続けることを願っています。

Contents

会長あいさつ・先生便り P2
聖セシリアの近況 P3
こんな素敵な卒業生 P4-5
同窓会便り P6
在校生の活躍・松和会入会式 P7
松和会Information P8

会長あいさつ

求めなさい・・・



松和会会長 原 信江
旧姓 伊勢（1974年卒業）

私は現在2027年3月で閉園となる聖セシリア喜多見幼稚園におります。一学年という少ない人数ですが、笑顔いっぱいの子どもたちと穏やかな日々を過ごしています。

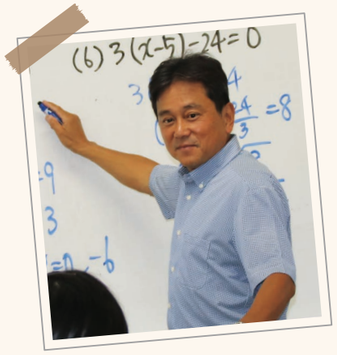
喜多見幼稚園の裏側には小田急電鉄研修センターがありますが、その一角に大和学園の創立者、伊東静江先生のお父様、利光鶴松 銅像があることを知りました。彼は複数の鉄道事業に関わりましたが、最大の功績は小田急電鉄を創設したことです。「実行力に富んだ開拓者」「周囲に流されず、強い信念の持ち主」と評されています。利光鶴松と長女・静江（後の伊東静江）の関係は、静江先生の教育理念や学校創設を支えていた理解者・後援者でした。つまり父が未来のまちづくりを構想し、鉄道で人を運び、娘がその地域の教育を担った、人を育てるという関係でした。伊東静江先生が学校を建てるといった時にほとんどの人が無謀なことだと笑っていたといわれますが、神への信頼と感謝をこめて、次の聖書の箇所を語っていました。

「求めなさい。そうすれば与えられる。」（マタイ7・7）

本当に価値あるものを求め続ける人には、道は開かれると確信していました。

伊東静江先生を知る卒業生は少なくなりましたが、その精神は受け継がれてきました。「カトリック精神に基づく女子教育」という強い信念によって築かれた教育活動は大地に根をはり、多くの生徒たちが色々なことを求めて学びました。卒業生が8000名を超え、様々な分野で活躍されていることを創立者も天国から喜んでいることでしょう。

先生便り



ぼちぼち定年です

1987年～現在　数学科　大橋 貴之 先生

新卒で勤務し40年目となりました。ぼちぼち定年(65歳)です。最初の10数年は担任やテニス部顧問、その後は広報担当やクラシックバレエ部顧問です。数学の授業は今でも持っています。「図形の証明は何の役に立つのですか?」は毎年です。時が流れて周りの環境が変わっても、本質的に生徒が変わっていないことを実感しています。セシリアに入学し、この環境=校風で過ごすうちに心豊かな人になっていくことも変わっていません。

定年に近い教員が沢山います。「反抗していた」「影が薄かった」などの理由で母校に訪れるのを躊躇することはありません。様々な教え子との再会は教師冥利に尽きます。卒業生の近況報告を楽しみにしています。

やすらぎのとき



1986年～現在　国語科　森 英津子 先生

セシリアファミリーの一員となってから40年の歳月が過ぎ、ここ数年は「同窓会」に参加することが多くなりました。大人になった皆さんの近況をうかがうと、キャリアを積まれていたり、お母さんになっていたりと、その成長ぶりに感動するばかりです。でも不思議なことに、言葉を交わせばすぐに時を遡り在学中のことが思い出されます。ひとしきりおしゃべりしたあとは必ず校舎見学です。自分たちが過ごした教室や、その頃にはなかった施設をはしゃぎながらまわっていました。そこには在学中と変わらない素直で明るい笑顔があふれます。そんな様子を見ながら私自身も温かい気持ちに包まれるのでした。このやすらぎのひとときが大好きです。

聖セシリアの近況

聖セシリアの近況❶ 多国籍の出会いが広げる学びの世界

英語科　鶴間 千智 先生

コロナ禍で多くの行事が中止となる中、「子どもたちに何か体験の機会を設けたい」という思いから、外部団体を招いて中3・高1を対象としたグローバルワークショップを実施しました。そこで見られた生徒たちの生き生きとした表情が忘れられず、当時来校していた東大大学院の留学生にお願いし、2023年度にセシリア独自のワークショップがスタートしました。

スロバキア・南アフリカ・ブラジル・フィリピン・フランスなど、多様な国の留学生が参加し、自国の文化や学校生活、SDGsやSNSなど学年ごとのテーマに沿って授業を展開します。生徒たちは積極的に質問し、異文化に触れる喜びを全身で味わっています。「楽しかった」「またやりたい」という声が多くあがり、学びへの前向きな変化が確かに生まれています。

また、母語ではない英語で挑戦する留学生の姿は大きな刺激となり、「もっと知りたい」「英語で伝えたい」という意欲につながっていると感じます。ここで得た出会いと学びが、生徒たちのこれからをどのように形づくるのか、期待が高まる思いです。







聖セシリアの近況❷ ラオス教室建設

中高生徒会

生徒会では、「はじめのいっぽプロジェクト」として2015年からラオスに学校を建設することを目標に、オリジナルグッズ販売などを通して募金活動を続けてきました。

昨年度にはついに約400万円もの建設費用が集まりました。活動開始当初は「学校建設」を目標としていましたが、物価高騰や現地の状況により学校建設が困難になったため「教室建設」という形で実らせることになりました。

今回、ラオスのセコン県にあるセノイ中学校に建設された教室は2学期が始まる2026年2月からクラス編成を変え、早速使用されています。新たに教室を建設したことで年々増加する中学校の生徒数と教室不足に対応することができ、クラスの過密状態が緩和され、現地の子供たちの充実した学習環境が整いました。

この教室は10年もの間のたくさんの人の努力や協力、この活動に対する想いが形になったものです。これまでこのプロジェクトに協力してくださった先輩方、ありがとうございました!より詳しい活動報告は10月の聖セシリア祭で展示しますのでぜひお立ち寄りください!



▲ 教室竣工式にあたり、生徒会役員がメッセージを寄せました



▲ ラオスの生徒たち（教室が完成したことを喜び、お礼のメッセージをいただきました）

▲ 民際センターのHPに本校の取り組みが紹介されています



▲ 完成した教室

こんな素敵な卒業生

人生の糧となった母校への感謝

1987年卒業

いつも優しい笑顔で導いてくださった伊東千鶴子校長先生の下、小学校から短大まで14年間聖セシリアでは多くのことを学びました。水泳部、バドミントン部では山田先生の厳しくも温かいご指導のもと、仲間と泣き、笑い、かけがえのない時間を過ごしました。

短大卒業後は百貨店に就職し、こども関連部署へ配属され約40年従事しています。同じ部署には高校からの学友の兼子さんも一緒で、日々楽しく働いています。会社は当時から女性が働きやすい制度が整っており、周囲の理解と環境に恵まれて「産休育休制度」を利用し、子供が2歳の時に復職しました。

保育園入園当初は寂しい思いをしていないか悩むこともありましたが「お神輿担いだ!」「お芋を沢山掘ったよ!」と元気に報告してくれる姿に安心し、充実した日々を過ごすことができました。現在は立派な社会人となりましたが、励まし喜んだ時間は全てが大切な思い出です。

私は一時病気で会社を休職し、今も難病指定の病で通院中ですが会社の同僚・家族の理解と支えが力になっています。

今回振り返る機会をいただけたことに心から感謝します。



▲ 恩師山田先生とバドミントン部の仲間



▲ 短大卒業後40年間、今も同じ職場で働く

祈る、とは

1995年卒業

高校時代は水泳部に所属、生徒会長を務め、友人や先生達にも恵まれて、私の青春時代そのものでした。短大を卒業後、就職した会社の中でも約16年在籍した商社では、憧れていた海外赴任も経験できました。しかし飽き足らず(笑)会社を飛び出し奮起、牡蠣好きが高じて、去年から大分県佐伯市に移住し、地域おこし協力隊(移住相談)と、牡蠣養殖事業の仕事をしています。はたから見たら自由奔放ですが、これも私らしい人生かなと思っています。

振り返ると、セシリアでの毎日の「祈り」の時間が、私の解釈では周囲への感謝や自分の気持ちを信じる行為で、ずっと自分の軸にあることに気づきました。いわば祈りとは、私の人生を動かしたスイッチ(原動力)なのかもしれません。近い将来、世界中の牡蠣を食べに旅をしたいと願っています。もし叶ったら、私の仮説が正しかったということでしょう。セシリアの皆様の幸せを心からお祈り申しあげます。



▲ 生徒会メンバーと



▲ 佐伯市大入島にて

フラワーアーティストとして生きる
～花で変える未来～

2004年卒業

皆様は、フラワーアーティストと聞くとどのような職業を想像するでしょうか。花束やアレンジメントを制作する仕事を思い浮かべる方が多いかもしれません。私にとって花は、空間に新たな意味を与え、人の感情や物語を可視化する芸術的手段です。

聖セシリア女子中学校・高等学校で学んだ「信じ 希望し 愛深く」の精神は、現在の創作活動の原点となっています。卒業後は東洋大学法学部企業法学科を首席で卒業し、大学院で法学修士号を取得しました。現在は合同会社エンベリッシュの代表社員として、生花店の経営及び映画美術や大型インスタレーションを中心にアーティスト活動を行っております。

今年東京ミッドタウンで開催されたFlower Art Awardという大型作品アワードでは、「愛の讃歌」をテーマに大型作品を制作しました。また映画美術では、「平和と調和とは何か」という問いのもと、花の街と戦車に花を生けるメインビジュアルを担当し、対立を超えて共生を願うメッセージを表現しました。

花は美しさを表現するだけでなく、言葉を持たずとも私たちに語りかけ、社会や人間の在り方を問い、愛や命の尊さを伝える力を持っています。テクノロジーが進化し、価値観が多様化する昨今、花を通して既存の価値観に新たな視点を投げかけ、人と人、人と社会をつなぐ表現を追求し、「花で変える未来」を実現していきます。



▲「愛の賛歌」



▲ 最近の写真

人とのつながりに支えられて

2008年卒業

素敵な卒業生としてお声掛けいただき、大変光栄に思います。セシリアでの思い出は数え切れません。高校2年生の春に父を病気で亡くした際、学校を辞めなければいけないかもしれないと不安になりました。しかし母や先生方、友人達の支え、そしてセシリアで過ごす日々そのものが私の心を癒してくれました。特に宿泊行事での分かち合いは、自分と向き合い、人との繋がりを感じられる大切な時間でした。

元々なりたい職業は看護師でした。父のことをきっかけに予防医療に興味を持ち、保健師を目指して看護大学へ進学しました。卒業後は病棟看護師として勤務し、現在は献血ルームで採血責任者として働いています。保健師とは異なる道に進みましたが、献血を通じて多くの命を支える医療に関われることにやりがいを感じています。

毎日楽しく働き、自分らしく生活できているのは、セシリアでいただいた愛情と学びがあったからです。いつも温かく迎えてくれる母校が大好きで、心から感謝しています。



▲ 学生時代



▲ 最近の写真

同窓会便り

1989年～1995年卒業　青柳先生を囲む会を開催しました～★



2025年11月15日（土）、カフェテリアにて1989年～1995年のテニス部卒業生26名が集い、青柳先生を囲んで旧交を温めました。奥村コーチを偲びながら思い出を語り合い、先生方との再会を通じて、セシリアの愛や、温かさに触れ、有意義な時間を過ごすことができ、感謝に満ちた一日となりました。ありがとうございました。

1995年卒業　かけがえのない時間に感謝



2025年12月6日（土）、カフェテリアにて47期の同窓会を開催いたしました。当日は懐かしい顔ぶれが集まり、多くの先生方にもお会いし、近況報告や思い出話に花を咲かせながら楽しいひと時を過ごすことができました。聖セシリアで過ごしたかけがえのない時間に感謝し、次回の再会を誓いました。

2004年卒業　懐かしい時間を過ごしました



卒業以来初めての同窓会を、40歳という節目に開催することができました。久しぶりに会ったにも関わらず、顔を合わせた瞬間に高校生の頃の気持ちに戻り、懐かしい思い出話に花が咲きました。こうして再び会えたことに感謝し、これからも皆様が健康を大切にし、それぞれの人生を充実して歩まれますことを願っております。

2006年卒業　青春時代に戻ったひととき



卒業から20年の節目に同窓会を開催致しました。思い出話に花が咲き、あっという間のひとときでした。先生方も変わらずお元気で、懐かしい時間を過ごすことができました。青春時代に戻れる友人たちと母校の存在に感謝しております。創立100周年も心待ちにしております。

2008年～2017年卒業　演劇部OG会



2025年6月14日（土）、演劇部OG会を開催しました。大野先生を囲み、2008年～2017年までの卒業生総勢25名が参加。卒業以来の再会を喜び合う声や思い出話に花が咲き、世代を超えた交流が生まれました。演劇部への変わらぬ思いを共有する、温かなひとときとなりました。

2024年卒業　成人式を迎えての同窓会



2026年1月12日（月）、横浜グランドインターコンチネンタルホテルにて、76期卒業生の同窓会が行われました。2年ぶりの再会となりましたが、会えなかった時間がなかったかのような空気感の中で会話を弾ませることができました。また、卒業してもなお、愛情深く接してくださる先生方に祝福していただき、幸せいっぱいの門出となりました。

幹事一同

在校生の活躍

コンピューター部　挑戦から広がる可能性

顧問 濱田 知之 先生

コンピューター部はどんなクラブなのかと尋ねられることがよくあります。そんな時、私は部員の言葉を借りて「ホワイトで、自由なクラブです」と答えています。コロナ禍を機に本校でもICT化が進み、生徒全員がiPadを手に校内のどこからでも世界とつながれるようになった今、コンピューター部でなければできない活動は確かに減りました。それでもセシリアのコンピューター部は、クラス以外の“第2の居場所”として、生徒一人ひとりの「やってみたい」という気持ちを大切にしながら活動を続けています。そのため、ドローンを操縦する生徒、デジタルイラストを描く生徒、ゲームを制作して遊ぶ生徒など、活動は実に多様です。周囲から「どんなクラブなの?」と聞かれるのも、この自由さゆえかもしれません。

高校3年生は5～6月に“引退作品”を制作します。今年度の3年生は「誰もやったことのないことをしたい」と、アリーナでのプロジェクションマッピングに挑戦しました。制作期間はわずか2週間。プロでも難しい作業ですが、生徒たちは映像を作っては投影し、ズレを修正し、また作り直すことを繰り返し、顧問の想像を超える作品を完成させました。

5月発表会ではオープニングを飾り、上映の瞬間には会場からどよめきが起こりました。その反応を見たとき、生徒たちの努力が確かに報われたと感じました。同時に、挑戦の機会こそが子供たちの可能性を広げるのだと実感しました。自由な環境は、未来を想像以上に豊かに育てていきます。コンピューター部はこれからも、部員が自分らしく過ごせる居場所であり続けます。



▲ 体育祭



▲ 送別会





▲ プロジェクションマッピング



▲ マッピング作成者

発表会の様子は
下記QRコードより
ご覧ください。

松和会 入会式

2025年度 高3担当 泉 由香里 先生

2026年2月24日（火）、78期生の松和会入会式がアリーナで行われました。

卒業準備期間初日に行われたこの入会式は、卒業生でかつて中高の教諭でいらっしゃった会長 原信江先生より、会の歴史や会則の説明が伝えられました。卒業生たちは、この日を皮切りに、「卒業」を実感し、卒業生としての誇りが高まったことと思います。会の最後では、同窓会の中心を担う8名の役員も紹介されました。78期生116名の卒業生が多岐にわたって活躍していくことを教職員一同お祈りしております。



